

目次

第一章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置づけと期間	1
3 計画の背景	2

第二章 計画の目標

1 教育環境の改善	3
2 より良い教育を実践していくための目標	4

第三章 基本計画

1 市立中学校の再編計画（新中学校創設基本計画）	5
--------------------------	---

第四章 実施体制とスケジュール

1 開校準備協議会の設置	7
2 再編までのスケジュール	8

第五章 実施に向けた方策

1 課題に対する検討	9
------------	---

資料編

1 生徒数と将来推計	12
2 施設の状況	13
3 新中学校の生徒数・学級数の将来推計	14
4 現校区別の生徒数将来推計	15

第一章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

田川市は、平成28年3月に「田川市第5次総合計画 後期基本計画」を策定し、「郷土を愛し豊かな心と創造力を育むまちづくり」を基本目標に掲げて、教育・文化政策に取り組んでいます。この計画では、豊かに学べる教育環境を整備充実する施策として、田川市立中学校の再編を進めることとしています。

本市の中学校は8校ありますが、生徒数の減少により、どの学校も小規模化が進んでいます。そのため、子どもたちに必要な資質や学力を身に付けさせる望ましい集団規模が確保できていません。部活動や学校行事においても、制約が増えてきています。近年は、より良い教育環境を求めて、私立や県立中学校への進学志向が高まっており、市立中学校は、魅力ある学校づくりが求められている状況です。

田川市教育委員会は、平成25年に「田川市立学校 校区再編基本方針」(以下、「基本方針」という。)を策定し、再編計画を策定するための基本的な考えをまとめました。その後、基本方針を具体化するための「新中学校創設基本計画の策定方針」を定めたのち、田川市新中学校のあり方に関する審議会への諮問、市民アンケート、市立中学校再編に関する住民説明会、保護者懇談会等を実施して、様々な意見を聴取してきました。また、田川市新中学校創設庁内検討委員会を設置し、財政面やまちづくりの観点からも検討を重ねてきました。

本計画は、将来の生徒数の推移やまちづくりの方向性等を踏まえて、長期的展望に立ち、子どもたちに必要な力を育むための望ましい教育環境を整備していくために策定しました。

2 計画の位置づけと期間

(1) 計画の位置づけ

本計画は、「田川市第5次総合計画 後期基本計画」の「郷土を愛し豊かな心と創造力を育むまちづくり」を進める具体的施策として位置づけられるものであり、教育委員会の基本方針に基づき、学校規模の適正化を図り、本市の目指す学校教育を実現することを目的とした計画です。

(2) 計画の期間

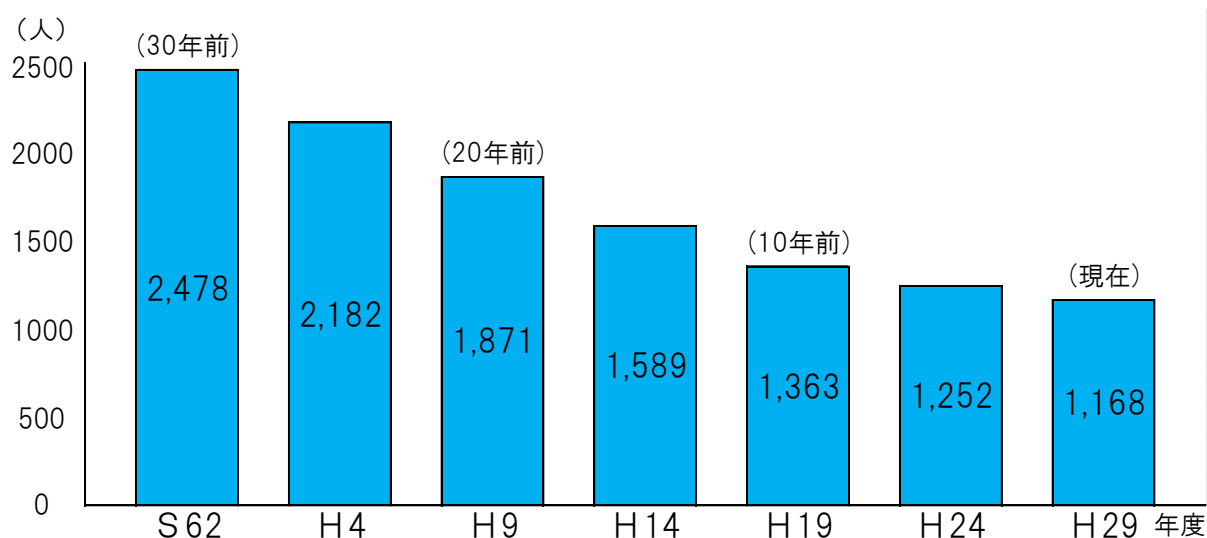
本計画は、新中学校を開校するまでの期間とします。

3 計画の背景

本市では、最盛期に10万人を超えた人口が、平成26年に5万人を割り、今なお減少傾向が続いています。田川市立中学校の在籍生徒数は、30年前の2,478人から、1,168人まで減少しています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、本市の15歳未満の将来人口は、2015年から2040年までの間に22%超の減少が予想されています。

《田川市立中学校 生徒数推移》



資料：文部科学省実施「学校基本調査（調査期日5月1日）」より

《田川市の15歳未満人口将来推計》

田川市の15歳未満人口将来推計

年 年齢	2015年 [H27]		2020年 [H32]		2025年 [H37]		2030年 [H42]		2035年 [H47]		2040年 [H52]	
	人口	減少率 ¹	人口	減少率	人口	減少率	人口	減少率	人口	減少率	人口	減少率
0～4歳	2,005人	-	1,865人 (7.0%)		1,689人 (15.8%)		1,592人 (20.6%)		1,498人 (25.3%)		1,393人 (30.5%)	
5～9歳	2,129人	-	2,020人 (5.1%)		1,888人 (11.3%)		1,715人 (19.4%)		1,621人 (23.9%)		1,527人 (28.3%)	
10～14歳	2,144人	-	2,118人 (1.2%)		2,015人 (6.0%)		1,887人 (12.0%)		1,717人 (19.9%)		1,626人 (24.2%)	
計	6,278人	-	6,003人 (4.4%)		5,592人 (10.9%)		5,194人 (17.3%)		4,836人 (23.0%)		4,546人 (27.6%)	

[¹減少率 …各年齢区分ごとの対2015年比減少率]

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30年12月推計)

第二章 計画の目標

1 教育環境の改善

本計画は、学校規模の適正化を図り、本市の目指す学校教育を実現することを目的とした計画です。教育委員会は、基本方針の中で学校教育に3つの理想を掲げていました。

基本方針に掲げていた理想

理想	多様な学習形態の中で子どもたちの学力を伸ばす教育
	集団の中でお互いを認め合い協力する力を伸ばす教育
	一人ひとりの子どもたちの個性を伸ばす教育

学校規模の適正化は、教育環境を改善する観点から、必要な規模の生徒集団を確保することが目的です。また、教員定数は学級数に応じて定められており²、累進的に増える仕組みになっていることから、学習指導、生徒指導をより充実させることが期待できます。

一定規模の生徒集団の確保による改善

- ・ クラス替えによる人間関係の固定化の解消
- ・ 新たな出会いの広がりや豊かな人間関係の形成
- ・ 多様な集団形成の拡充
- ・ 学校行事や集団教育の活動幅の拡大
- ・ 部活動の選択肢の増加 など

教員の定数配置の増加による改善

- ・ 教科担任の複数配置の充実
- ・ 生徒指導上の問題への組織的指導体制の強化
- ・ 経験年数、専門性、男女比のバランスがとれた教員配置
- ・ 習熟度別学習やティーム・ティーチング等の多様な学習形態の進展
- ・ 多数の教員の視点による子どもの特性や能力の多面的把握 など

2 より良い教育を実践していくための目標

学校規模の適正化による理想の教育を実現するため、組織、風土、人材活用等の面においても環境の整備や改善を行い、より良い学校教育を実践していきます。

(1) 活気あふれる学校づくり

高い目標を共有し、学業、部活動、学校行事に取り組み、活力ある集団の中で子どもたちに豊かな社会性が育つように、活気あふれる学校づくりを目指します。

(2) 個性を伸ばす風土づくり

集団の中でも、個々の良さを尊重することに努め、自信と誇りを持てるように、それぞれが持つ良さを褒め、伸ばしていく学校風土を醸成することを目指します。

(3) 高い専門性を育む体制づくり

校内の教員集団が大きくなる利点を生かし、教員の授業力向上のために、より高い専門性を育む研究体制づくりを進めます。

(4) 柔軟な指導体制づくり

教員の数を生かして少人数指導、ティーム・ティーチングなどの多様な指導形態を充実させて、学力の全体的な底上げを目指します。

(5) 教員と子どもの向き合う時間を確保する体制づくり

家庭や地域との連携体制の整備や、教員以外の専門スタッフ（スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、学校事務職員等）の学校運営参画により、複雑化する生徒指導の課題への対応力を高めるとともに、教員の負担を減らして、子どもと向き合う時間の確保を目指します。

(6) 教育活動を充実させる人材の活用

部活動、ICT(情報通信技術)教育、英語教育などにおいて、専門的知識や技能を持つサポートスタッフの充実を図り、子どもたちの能力を伸ばす教育を目指します。

第三章 基本計画

1 市立中学校の再編計画（新中学校創設基本計画）

本再編計画は、教育委員会で定めた「田川市立学校 校区再編基本方針」及び「新中学校創設基本計画の策定方針」に基づき、猪位金校区を除く7中学校区を再編する計画です。本再編は一般的な統廃合とは異なり、対象校を全て廃止し、新たな中学校を開設するものです。

(1) 計画の基本的な考え方

再編計画は、望ましい学校規模を将来にわたって持続する観点から、2校再編が望ましいと考えます。なお、再編により通学区域が広がることから、通学の安全確保及び負担軽減に配慮するため、公共交通機関の利用やスクールバスの運行を検討します。また、1小学校から2中学校（別々の中学校）に通う校区を解消し、小学校と中学校の接続を強化するため、新中学校区の境界線は現小学校区の境界線に沿って設けます。

(2) 再編の枠組みと学校位置（配置）

校区は、旧東区、旧西区に分け、それぞれの地理的中心である伊田校区と後藤寺校区に中学校を設置します。学校位置は、現中学校敷を活用することとします。

校区（仮称）	通学校区	学校位置
東中学校区	田川小校区、鎮西小校区、伊田小校区、金川小校区	現伊田中学校敷
西中学校区	弓削田小校区、後藤寺小校区、大浦小校区、大藪小校区	現後藤寺中学校敷

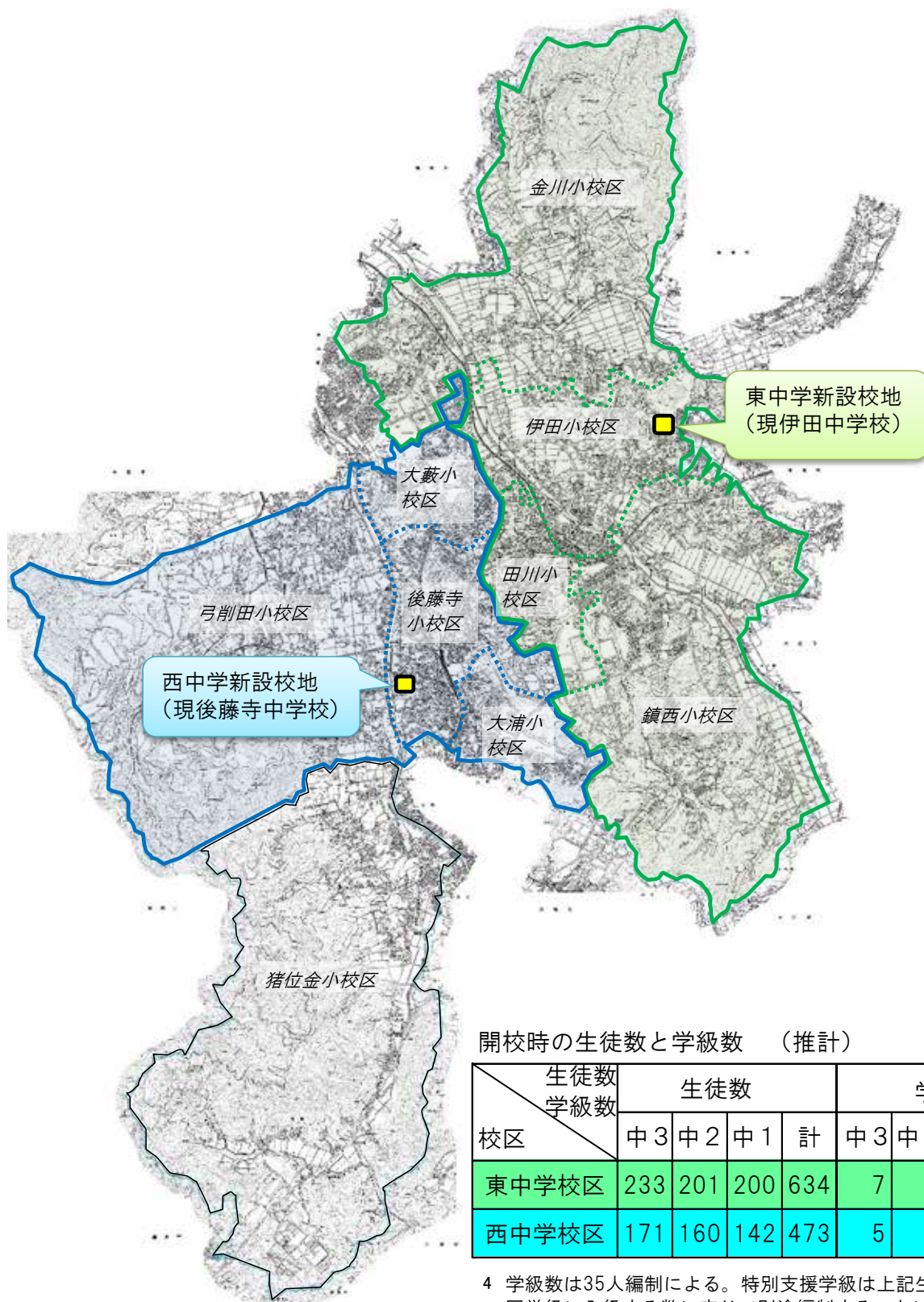
校区の枠組み及び学校位置は、以下の観点から総合的に判断して望ましいものと考えます。

- ① 明治期の市制町村制の施行後、地域が村、町、市へと集約・合併していく過程において、伊田、後藤寺が中心となり発展を遂げてきたことから、今なお、伊田地区、後藤寺地区を中心とした枠組みがあること。
- ② 2小学校区で1中学校区を構成している後藤寺小校区と大浦小校区を、同じ新中学校区に編成することにより、これまでの地域の取り組みやつながり等に配慮できること。
- ③ 各学校敷は、都市計画マスタープランにおいて都市拠点をはじめとする各拠点を連携する幹線道路沿線に位置しており、将来的なまちづくりや公共交通軸を保持する観点から有利な立地条件であること。

なお、計画推進にあたっては、再編後の学校規模に適した広さを確保する必要があることから、周辺用地の購入を検討します。

(3) 計画の位置図（校区と学校位置）

※新中学校の校名は仮称です。



開校時の生徒数と学級数（推計）

生徒数 学級数	生徒数				学級数 ⁴			
	中3	中2	中1	計	中3	中2	中1	計
東中学校区	233	201	200	634	7	6	6	19
西中学校区	171	160	142	473	5	5	5	15

4 学級数は35人編制による。特別支援学級は上記生徒数のうち同学級に入級する数に応じて別途編制することになる。

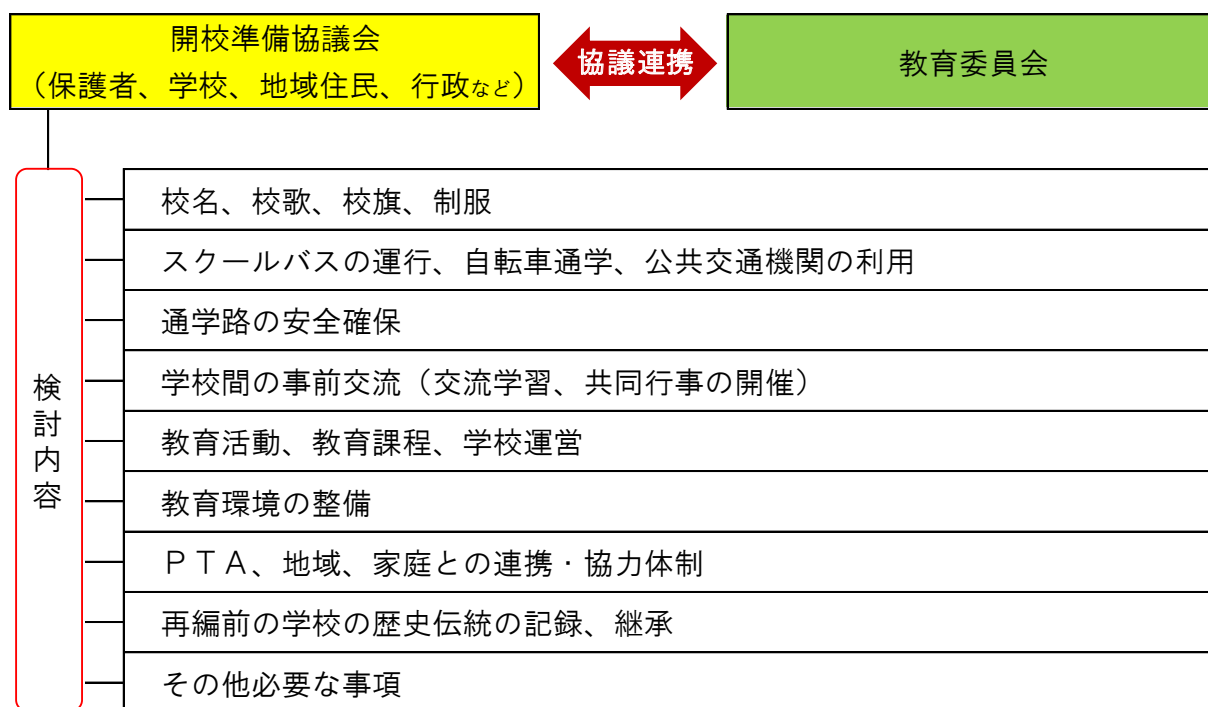
※ 平成31年2月1日時点の住民基本台帳及び学級編成状況を考慮して集計。

第四章 実施体制とスケジュール

1 開校準備協議会の設置

学校運営は、地域や保護者の協力と支援が欠かせません。また、地域や保護者の意見や要望を踏まえながら、新中学校を創っていく必要があります。その体制をつくるため、基本計画策定後、地域住民、保護者、教員、行政職員などで構成する「田川市新中学校開校準備協議会（以下、「開校準備協議会」という。）」を設置します。開校までに想定される諸問題を協議し、対策を講じるとともに、開校後に生じる課題や問題に対応する新たな協力体制を築いていきます。

◀ 開校準備協議会と検討内容 ▶



2 再編までのスケジュール

計画策定後は、開校準備協議会を設置し、開校に向けた検討事案を協議していくとともに、校舎等の施設整備や通学路整備などを進めていくことになります。その際には、保護者や地域、学校現場から意見や要望を取り入れながら、より良い準備や整備を行う必要があるため、一定の期間が必要となります。

課題解決に要する時間などに不確定な部分もありますが、再編の時期については、以下のように準備期間を想定して、令和4年（平成34年）を開校目標に進めていきます。

開校までのスケジュール

	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度 (平成32年度)	令和3年度 (平成33年度)	令和4年度 (平成34年度)	
実施事項	計画策定				
	基本設計・実施設計				
		仮設校舎利用			
		学校建設工事			
				一部外構工事	
		開校準備協議会			
		保護者・住民への説明・周知			
				開校	

第五章 実施に向けた方策

1 課題に対する検討

再編の実施には様々な課題があります。開校準備協議会の意見や要望を踏まえ、より良い環境整備を目指すとともに、生徒や保護者の負担や環境変化に配慮した方策を検討していきます。

また、これまで説明会や懇談会、アンケート等で頂いたご意見・ご要望についても、課題として取り上げ、具体的な方策を検討します。

(1)再編後の校舎等の施設整備について

再編後の校舎等の整備は、大規模改修や増築の費用等を判断材料にしながら、教育ニーズ、地域のニーズ等を踏まえたより良い施設整備を目指す観点から、新築を基本に施設整備の方法を検討していきます。

また、今回の施設整備に併せて、エアコン設置を検討します。さらに、生徒の人数が増えるため、先進事例を参考に、教員の目が十分に行き届くような校舎配置を検討します。

(2) 通学区域について

小学校区単位で再編するため、1小学校から2中学校（別々の中学校）に通う状況が解消されますが、解消される地域の児童生徒については、地域や学校における交友関係などの繋がりに配慮し、開校から一定期間、申し出による学校選択を許可する経過措置を検討します。当該地域は、地域コミュニティの境界線が変わるため、地域の意見を踏まえて、必要に応じて校区の境界線の調整を検討します。

(3) 生徒の通学について

通学は徒歩を基本としますが、再編により通学距離が一定以上延びる生徒については、自転車通学の許可及びスクールバスの運行を検討します。また、既存の路線バスやコミュニティバス、平成筑豊鉄道等の公共交通機関が利用できる地域は、運賃の補助を検討します。

(4) 通学路の安全について

通学路については、生徒の安全確保のために、歩道の確保や防犯灯の設置等、関係機関と協議連携して整備を進めます。

(5) 校舎建設中の教育環境について

伊田中学校及び後藤寺中学校の生徒が、校舎建設中も引き続き適切な教育を受けられるように、教育環境に配慮します。

(6) 給食の実施方法について

再編対象校は現在ランチボックス方式で給食を実施していますが、校舎等の整備検討に合わせて、自校調理方式を検討していきます。

(7) 学校間の交流

開校時の第2学年と第3学年は、再編前の中学校に在学していた生徒が合流する形になります。生徒や保護者の環境変化に対する不安を和らげ、円滑に学校生活スタートできるように、小学校の段階から計画的に学校間の交流機会を設けます。

また、特別支援学級に通う児童・生徒については、事前交流の機会を設けるとともに、小学校、中学校の担当教員が連携し、特に慎重な対応ができるよう十分な検討を行います。

(8) ICT教育の推進について

ICT教育機器（電子黒板・デジタル教科書・実物投影機・タブレットPC）の有効活用により、「どの生徒に対しても分りやすい授業」や「主体的・協働的な授業スタイル」を実現し、基礎学力の定着及び情報活用能力の育成を目指します。

また、教員の負担を軽減し、子どもたちと向き合う時間を増やすため、校務支援システムの導入も検討します。

(8) 教職員配置等の配慮

開校時の第3学年については、環境変化への不安を抑えるため、前中学校で同学年に関わりの深かった教員を配置するなどして、進路実現に向けて安心して過ごせるように配慮します。また、開校直後の生徒の不安を解消するため、心理の専門家（スクールカウンセラー）や福祉の専門家（スクールソーシャルワーカー）等による相談体制の整備を検討します。

さらに、ICT支援員、ALT（外国語指導助手）及び生徒指導支援スタッフ等の常駐についても検討します。

(10) 部活動の充実について

生徒の意向を事前に調査をしたうえで、部活動の種類を体育系、文化系ともに拡充します。また、教員の負担を軽減するとともに、高いレベルで指導が受けられるように、外部指導員の活用も検討します。

(11) 学用品について

保護者の負担が過重にならないように、十分に配慮します。

新中学校の制服については、中学校生徒会サミットにおいても提言されたLGBTQの生徒に配慮した制服を、開校準備協議会において検討します。

(12) 新たな協力体制の構築について

保護者や住民間で新たな絆を作り、学校で生じる課題や問題に対応する新たな協力体制を構築するため、保護者や地域住民が参画して学校運営の改善に取り組む「学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）⁵」の導入について、小学校を含め検討します。

(13) 跡地の利用について

再編により廃校となる学校の校舎及び敷地は、新中学校の整備費用等に充てるため、売却を基本に検討しますが、地域振興や本市のまちづくりの視点から、総合計画をはじめとする市の重要施策の方向に沿った活用策を検討します。

(14) 猪位金学園のあり方について

猪位金学園は、小中一貫教育のスタイルを研究しており、その研究成果は、田川市全体の学校教育に生かしていくこととしています。

今後、同学園（中学校）については、より多くの研究成果を蓄積するためにも、存続することとします。

一方で、同学園（中学校）は、適正規模の観点から課題が残りますので、将来的にその存続について検討が必要となった場合は、地域や保護者と十分な協議を行いながら、その後のあり方について検討します。

⁵ 教育委員会から任命された保護者や地域住民が、一定の権限と責任を持って、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりすることを通じて、学校の様々な課題解決に参画する制度。

資料編

1 生徒数と将来推計

(1) 市立中学校の生徒数

現在、田川市立中学校は、全て適正規模（12～18 学級）に満たない小規模校（6～11 学級）あるいは過小規模校（1～5 学級）です。1 学年は、1 学級または 2 学級で編制されています。

市立中学校生徒数及び学級数 (平成31年2月1日現在)

学校名	区分	通常学級			特別支援学級	合計
		1 年	2 年	3 年		
猪位金中学校	生徒数	27	30	18	6	81
	学級数	1	1	1	2	5
弓削田中学校	生徒数	45	67	63	8	183
	学級数	2	2	2	2	8
後藤寺中学校	生徒数	48	58	56	9	171
	学級数	2	2	2	2	8
田川中学校	生徒数	32	50	47	4	133
	学級数	1	2	2	2	7
鎮西中学校	生徒数	63	62	55	8	188
	学級数	2	2	2	2	8
伊田中学校	生徒数	53	56	51	5	165
	学級数	2	2	2	1	7
金川中学校	生徒数	51	37	58	4	150
	学級数	2	2	2	2	8
中央中学校	生徒数	28	17	24	7	76
	学級数	1	1	1	2	5
計	生徒数	[369] 347	[397] 377	[381] 372	51	1,147
	学級数	13	14	14	15	56

通常学級は35人編制。[]内の数値は特別支援学級の生徒数を該当する学年に含めた場合の数

(2) 中学校別の生徒数の将来推計（5年ごと）

学校名	R4年度 (開校時)			R9年度 (5年後)			R14年度 (10年後)			R19年度 (15年後)			R24年度 (20年後)		
	3年	2年	1年	3年	2年	1年	3年	2年	1年	3年	2年	1年	3年	2年	1年
猪位金中学校	23	26	17	19	23	25	24	22	22	17	17	21	15	15	19
弓削田中学校	73	66	59	64	57	63	48	61	44	57	55	41	55	52	38
後藤寺中学校	58	58	48	41	41	45	43	47	40	42	39	36	40	37	34
田川中学校	42	35	37	36	46	46	27	37	25	30	31	22	28	28	22
鎮西中学校	76	72	71	71	69	69	69	69	64	60	54	58	57	51	54
伊田中学校	60	54	48	49	48	49	48	49	44	43	39	41	42	37	38
金川中学校	62	54	48	41	45	46	37	42	35	36	33	31	35	31	30
中央中学校	33	34	40	34	30	39	29	32	27	18	32	24	17	31	23
計	427	399	368	355	359	382	325	359	301	303	300	274	289	282	258

各校区の住民基本台帳人口及び国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口から推計（P15）

2 施設の状況

現中学校の校舎等は、建築後約 50 年を経過しているものもあり、老朽化が進んでいます。今後さらに老朽化が進むと、大規模な補修が必要となってくる状況です。

猪位金学園

【校舎】	
経過年数 ³	34年
延床面積	3,950㎡
【体育館】	
経過年数	18年
延床面積	1,140㎡
【敷地】	
有効面積	21,123㎡



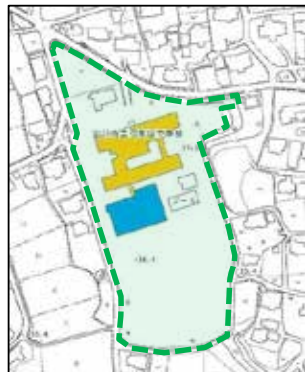
鎮西中学校

【校舎】	
経過年数	38年
延床面積	4,290㎡
【体育館】	
経過年数	22年
延床面積	1,537㎡
【敷地】	
有効面積	35,399㎡



弓削田中学校

【校舎】	
経過年数	35年
延床面積	4,325㎡
【体育館】	
経過年数	13年
延床面積	1,340㎡
【敷地】	
有効面積	24,449㎡



伊田中学校

【校舎】	
経過年数	37年
延床面積	4,166㎡
【体育館】	
経過年数	21年
延床面積	1,538㎡
【敷地】	
有効面積	21,238㎡



後藤寺中学校

【校舎】	
経過年数	36年
延床面積	5,022㎡
【体育館】	
経過年数	25年
延床面積	1,567㎡
【敷地】	
有効面積	26,745㎡



金川中学校

【校舎】	
経過年数	43年
延床面積	3,385㎡
【体育館】	
経過年数	15年
延床面積	1,340㎡
【敷地】	
有効面積	20,360㎡



田川中学校

【校舎】	
経過年数	48年
延床面積	3,077㎡
【体育館】	
経過年数	30年
延床面積	1,083㎡
【敷地】	
有効面積	24,528㎡



中央中学校

【校舎】	
経過年数	39年
延床面積	3,202㎡
【体育館】	
経過年数	8年
延床面積	1,135㎡
【敷地】	
有効面積	22,633㎡



… 校舎
 … 体育館
 … 敷地有効面積
 ³ 経過年数は平成31年4月1日時点

3 新中学校の生徒数・学級数の将来推計

令和4年度 開校時

学校	生徒数 [人]				学級数 [クラス]			
	中3	中2	中1	計	中3	中2	中1	計
東中学校	224	209	201	634	7	6	6	19
西中学校	180	164	150	494	6	5	5	16

※中3…H19.4.2～H20.4.1生まれ（H31年度 小学6年生）

令和14年度（開校から10年後）

学校	生徒数 [人]				学級数 [クラス]			
	中3	中2	中1	計	中3	中2	中1	計
東中学校	177	190	165	532	6	6	5	17
西中学校	124	147	114	385	4	5	4	13

令和24年度（開校から20年後）

学校	生徒数 [人]				学級数 [クラス]			
	中3	中2	中1	計	中3	中2	中1	計
東中学校	150	148	140	438	5	5	4	14
西中学校	124	119	99	342	4	4	3	11

年齢別(学年別) 生徒数・学級数将来推計

学校別	年齢	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
		東中学校	生徒数 (学級数)	224 (7)	209 (6)	201 (6)	188 (6)	187 (6)	197 (6)	189 (6)	204 (6)	187 (6)	184 (6)
西中学校	生徒数 (学級数)	180 (6)	164 (5)	150 (5)	161 (5)	164 (5)	139 (4)	147 (5)	153 (5)	155 (5)	151 (5)	124 (4)	147 (5)

学校別	年齢	△1	△2	△3	△4	△5	△6	△7	△8	△9	△10	△11	△12
		東中学校	生徒数 (学級数)	165 (5)	177 (6)	174 (5)	156 (5)	156 (5)	150 (5)	160 (5)	162 (5)	150 (5)	148 (5)
西中学校	生徒数 (学級数)	114 (4)	135 (4)	130 (4)	130 (4)	127 (4)	103 (3)	123 (4)	121 (4)	124 (4)	119 (4)	99 (3)	116 (4)

※11歳はH19.4.2～H20.4.1生まれが該当（平成31年度時小学6年生、令和4年度時中学3年生）。

学級は35人編制。特別支援学級は上表生徒数のうち同学級に入級する数に応じて別途編制。

※平成31年2月1日時点の住民基本台帳を基に集計。

4 現校区別の生徒数将来推計

(1) 中学校区別 生徒数将来推計

年齢 校区	11歳 [開校時該当]	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳	△1
猪位金中	33	37	25	30	39	20	25	27	21	21	26	24	24
弓削田中	62	61	50	75	62	61	54	60	65	62	46	58	42
後藤寺中	71	64	58	52	57	48	56	58	62	62	55	60	50
田川中	38	35	34	31	31	31	41	41	32	32	25	32	23
鎮西中	68	55	55	52	67	72	69	70	72	64	69	69	64
伊田中	68	65	65	55	54	47	46	47	49	44	46	47	42
金川中	68	49	50	52	47	49	54	55	50	46	42	48	39
中央中	29	32	30	30	21	30	19	30	14	28	21	23	20
計	437	398	367	377	378	358	364	388	365	359	330	361	304

年齢 校区	△2	△3	△4	△5	△6	△7	△8	△9	△10	△11	△12	△13	△14
猪位金中	23	23	18	18	23	20	21	17	17	20	19	20	16
弓削田中	54	50	54	53	39	49	47	52	49	36	46	45	48
後藤寺中	55	49	52	52	45	50	46	48	48	43	47	43	46
田川中	30	35	27	27	21	27	32	25	25	19	25	31	25
鎮西中	64	59	60	55	58	58	55	57	51	55	55	52	54
伊田中	43	39	41	37	38	39	37	39	35	36	37	35	37
金川中	45	46	42	38	36	40	43	39	36	33	38	41	38
中央中	21	26	12	23	18	20	24	12	22	17	19	22	11
計	335	327	306	303	278	303	305	289	283	259	286	289	275

(2) 小学校区別 生徒数将来推計

年齢 校区	11歳 [開校時該当]	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳	△1
猪位金小	33	37	25	30	39	20	25	27	21	21	26	24	24
弓削田小	62	61	50	75	62	61	54	60	65	62	46	58	42
後藤寺小	52	35	40	33	31	30	40	39	38	38	32	37	29
大浦小	19	29	18	19	26	18	16	19	24	24	23	23	21
大藪小	38	35	34	31	31	31	41	41	32	32	25	32	23
田川小	29	32	30	30	21	30	19	30	14	28	21	23	20
鎮西小	68	55	55	52	67	72	69	70	72	64	69	69	64
伊田小	68	65	65	55	54	47	46	47	49	44	46	47	42
金川小	68	49	50	52	47	49	54	55	50	46	42	48	39
計	437	398	367	377	378	358	364	388	365	359	330	361	304

年齢 校区	△2	△3	△4	△5	△6	△7	△8	△9	△10	△11	△12	△13	△14
猪位金小	23	23	18	18	23	20	21	17	17	20	19	20	16
弓削田小	54	50	54	53	39	49	47	52	49	36	46	45	48
後藤寺小	34	32	32	32	26	31	31	30	30	25	29	29	28
大浦小	21	17	20	20	19	19	15	18	18	18	18	14	18
大藪小	30	35	27	27	21	27	32	25	25	19	25	31	25
田川小	21	26	12	23	18	20	24	12	22	17	19	22	11
鎮西小	64	59	60	55	58	58	55	57	51	55	55	52	54
伊田小	43	39	41	37	38	39	37	39	35	36	37	35	37
金川小	45	46	42	38	36	40	43	39	36	33	38	41	38
計	335	327	306	303	278	303	305	289	283	259	286	289	275

- ・ 上表11歳はH19.4.2～H20.4.1生まれが該当（平成31年度時小学6年生、開校時中学3年生）。
- ・ 生徒数は住民基本台帳人口と国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口に、校区ごとの市外への進学率と市外からの進学率を反映して推計。
- ・ 表(2)は表(1)を小学校区別に再集計したもの（全体合計を揃えるため小数点以下の端数調整あり）。